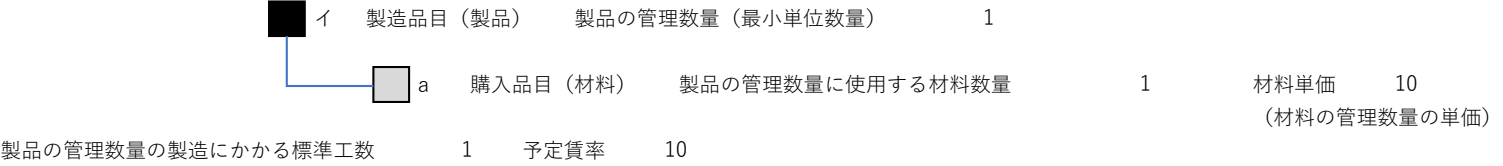
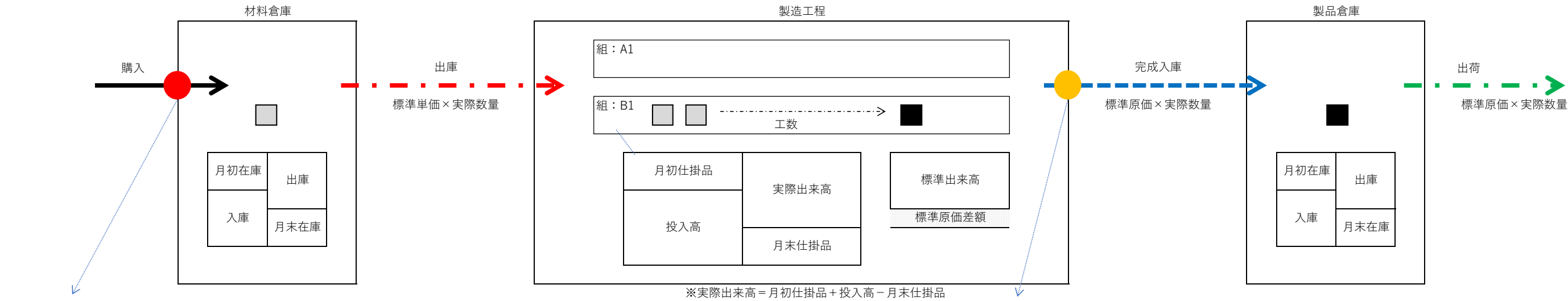


①標準原価の作成



標準原価				
	前工程	材料費	加工費	合計
イ		10	10	20
合計		10	10	

②実績原価計算



材料の購入時に
購入金額と標準単価×購入数量の差額を計上する
↓
購入価格差額

<購入明細>

品目	購入			標準		価格差額
	単価	数量	金額	単価	金額	
a	8	2	16	10	20	4
合計						

在庫評価は標準単価で行う

<在庫品台帳> ※品目毎に作成する

品目	標準単価	月初在庫		入庫		出庫		月末在庫	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
a	10	1	10	2	20	2	20	1	10
イ	20			1	20			1	20
合計									

※数量は実際、金額は標準単価×数量

検討課題

①標準原価の作成

- 1)品目コード、品名
購入品目（材料）
製造品目（製品）

2)管理数量

3)製造品目の材料構成

4)標準工数

②組の設定（組と製造品目との関係）

1：1

1：n

③実績データの把握

- 1)購入
2)出庫
3)完成入庫
4)工数
5)仕掛品（材料費）
6)仕掛品（加工費）

<原価計算表>

	月初仕掛品	月末仕掛品	投入高	実際出来高	標準出来高	差額
直接材料費	5	5	20	20	10	-10
加工費			8	8	10	2
合計	5	5	28	28	20	-8

※「必要なものを必要な時に必要なだけ」

材料、製品の在庫

仕掛品

完成入庫は、標準原価で行う→標準出来高
実際出来高と標準出来高の差額を計上する（仕掛品を一定とした場合は、投入高と標準出来高の差額と一致）

↓
標準原価差額 （標準出来高－実際出来高） 仕損じ
能率

直接材料費：標準単価×実際数量

加工費：予定賃率×実際工数

※原価維持、原価改善活動の推進が収益改善につながる

原価維持：標準原価（標準作業）通りに製造する

原価改善：製造現場の改善で原価を低減する→標準原価の見直し

配賦差異：原価計算表の製造費配賦額（加工費）の合計と実際発生費用との差額

	予算	実際	予算差異	①
製造費	1,500	1,400	100	

	操業度（工数）	配賦額	操業度（工数）	配賦額	操業度差異	②
イ	150	1,500	100	1,000		
ロ						
合計	150	1,500	100	1,000	-500	

予定賃率 10

配賦差異 -400 ①+②

※費用のムダをなくす（何が必要な費用か見極める）

※（販売が増えることにより）操業度を上げる

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソートウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市中種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室
Tel：052-439-6758 Fax：052-439-6759 担当 三井 江利子